

友の会総リーダー様

書籍係様

能登半島地震から1年が経ち、東日本大震災から14年になる今春、被災地を思い続け、支え合いたいと願い、1冊の本を作りました。ぜひお読みいただきたくご案内させていただきます。

◎ 3月5日書店発売

『フクシマ、能登、そしてこれから
震災後を生きる13人の物語』 藍原寛子著



表紙は福島県飯館村の風景

筆者の藍原寛子さんは、福島在住、自らも被災者です。ジャーナリストとして、阪神・淡路大震災から各地の震災のたびに、支援活動と取材をされ、その言葉からは被災地の様子、そこに生きる人たちのことがリアルに、そしてあたたかさと共に伝わってきます。

『婦人之友』での好評連載「10年後のフクシマ」で伝えた方々を再度訪ね、未曾有の原発災害から14年たったの暮らしや思いを伺いました。加えて、能登半島地震で被災し生きる人たちを昨年12月に取材。13人の方々の物語は、いつどこで大地震が起きてもおかしくない日本に住む多くの方と共有したい内容です。本のあとがきには、「連載時から自分のこととして記事を読み、一緒に考え、行動する読者の方々に大きな力をいただきました」と綴られています。作家・高村薫さんとの対談、各震災直後の様子も再録します。本の帯のことは、作家のあさのあつこさんが、ぜひにと、寄せてくださいました。

3月12日(水)の19時半からは、被災地支援・出版記念の藍原さんによるオンラインイベントを行います。本にご登場くださった方にもお話ししていただく予定です。チケット代(2,000円)収益の半額を、藍原さんを通して支援活動に寄付いたします。詳細は同封のチラシをご覧ください、どうぞご参加ください。

皆で被災地への思いをもち、行動し続けていきたい、その一助になればと思っております。

2025年1月22日

婦人之友編集部・羽仁曜子/雪山香代子